

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **52-026390**

(43)Date of publication of application : **26.02.1977**

(51)Int.CI. B01J 23/74
 B01J 23/58
 B01J 23/64
 // B01D 53/34
 F01N 3/15

(21)Application number : **50-103286** (71)Applicant : **TOYOTA MOTOR CORP**

(22)Date of filing : **26.08.1975** (72)Inventor : **OTSUKA YASUHIRO
UCHIDA KIYOSHI
WAKIZAKA HIROSHI**

(54) OXIDATION CATALYST USED FOR THE PURIFICATION OF EXHAUST GAS

(57)Abstract:

PURPOSE: An oxidation catalyst retaining excellent oxidation activity against CO and unburnt hydrocarbon in exhaust gas from an internal-combustion engine and controlling oxidation of SO₂ in exhaust gas.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]



2000円(特許料)

4,000円

特 許 願

昭和 50 年 26 日

特許庁長官殿

1. 発明の名称 排気ガス浄化用触媒触媒

2. 発明者

住所 愛知県豊田市平山町8丁目1番地の1
氏名 大庭 雄弘 (おおばと ひろひろ)

3. 特許出願人 (平471)

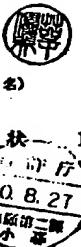
住所 愛知県豊田市トヨタ町1番地
名称 (820) トヨタ自動車工業株式会社
代表者 豊田 雄一郎

4. 代理人 (平101)

住所 東京都千代田区神田駿河台1の6、主婦の友ビル
(電話 (03) 9731~3)

氏名 (6271) 審 優美

(ほか 1名)



5. 添付書類の目録

- | | | | |
|----------|----|---------|----|
| (1) 明細書 | 1通 | (4) 委任状 | 1通 |
| (2) 図面 | 1通 | () | |
| (3) 願書副本 | 1通 | | |



50 103286

方書式

明細書

1. 発明の名称

排気ガス浄化用触媒触媒

2. 特許請求の範囲

白金又はパラジウムを単独で、あるいはこの両者を混合したもの、又はこれらを主成分として他の白金族元素を含むものを触媒成分として更に貴金属としてマグネシウム、バリウム、マンガン、亜鉛、鉄、ニッケル、ランタン、セリウム、コバルト、ストロンチウムを1種あるいは2種以上添加したことを特徴とする三酸化イオウ生成を抑制する排気ガス浄化用触媒触媒。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、内燃機関あるいは燃焼装置からの排出ガス中に含まれる有害な一酸化炭素(CO)、未燃焼炭化水素(未燃結けじ)等に対して高い酸化活性を保持する酸化触媒であつて、かつ燃料中のイオウ分が燃焼することにより発生し排出ガス中に含まれる亜硫酸ガス(SO₂)の触媒上での酸化による三酸化イオウ(SO₃)の

(1)

-513-

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑮ 特開昭 52-26390

⑯ 公開日 昭 52.(1977) 2.26

⑰ 特願昭 50-103286

⑱ 出願日 昭 50.(1975) 3.26

審査請求 未請求 (全5頁)

庁内整理番号

6703 4A
7305 4A
6941 32

⑲ 日本分類

I319A33
I319A11
S1 D51

⑳ Int.CI:

B01J 23/74
B01J 23/58
B01J 23/64/
B01D 53/34
F01N 3/15

生成を抑制した排気ガス浄化用触媒触媒に関するものである。

近頃、技術の進歩、産業の発達に伴い工場等から排出される汚水や排ガス、更に内燃機関、例えば車内のエンジンから排出される排気ガスの動植物に対する影響が大きくクローズアップされ、社会問題化されている。特に車の排気ガスは大気汚染の主因の一つとなつて来ており、一方排気ガスの成分、例えは未燃結けじ、CO、遊離酸化物(NUx)、亜硫酸ガス(SO₂)、三酸化イオウ(SO₃)などが生態系に与える影響についても研究がすゝみ、その有効性について次第に実証されて来ている。例えはSO₂はSO₃よりも有害であり、極めて低濃度で、人体の粘膜に対する刺激及び侵食性が大きい。この為、排出される有害成分を無害化する努力が極々試みられている。これらの対策の一として、酸化触媒を用いる浄化システムがある。この酸化触媒を用いて未燃結けじ、COを浄化するシステムでは、未燃結けじ、COはその大部分が

(2)

H_2U と U_2 に転換されればその目的が達せられるが、燃料中に含まれる1オク分は他の成分とともに燃焼され、内燃機関等から排出される。 U_2 については酸化触媒上で起る $U_2 + \frac{1}{2} O_2 \rightleftharpoons 2UO$ の反応により UO が生じ一部分は UO のまゝ、あるいは排出ガス中の水と反応して硫酸として排出される可能性がある。 UO の生成量は、上記反応が発熱反応であるため低温(300~600°C)ほど、また燃素濃度が高いほど多くなる。

この UO の生成を抑制する方法として、従来は触媒上へ導入する2次空気量を制御したり、あるいは上記の反応式の平衡から考慮した温度条件で触媒を作用させるなどの方法が考案されてはいた。

しかしながら、これらの方法を実験の自前車に採用する物台は、その使用条件に種々の制限を受け、更に燃費あるいは運転性などを物台的に評価すると前述方法は必ずしも有利な方法ではない。

(3)

フニア、チタニア、トリア、マグネシア及びセオライト等從来触媒に使用されるもののがあげられる。このような無機酸化物は1種又は2種以上を単独で又は混合して使用される。また担体としては高表面積を有すると共に高耐に耐える耐久性をも保持することが好ましい。担体は、球状、円筒状、ハニカム状又は鉛剤状などの形状に成型し、所望のシステムに適用させ得る。

本発明触媒は、前記の如く、これらの各種担体にまず白金、パラジウム等の活性金属を担持されるが、これら金属の担持法は常法に従い、可溶性塩類の浴液に担体を含浸させたのち、化学的な金属処理、あるいは熱分解などを行なうことによつて行い白金あるいはパラジウム系酸化触媒を得る。次にこの酸化触媒に、同様にマグネシアム、バリウム、マンガン、亜鉛、鉄、ニッケル、ランタン、セリウム、コバルト、ストロンチウムの各種純金屬の可溶性塩類、例えば硝酸塩、硫酸塩、炭酸塩、有機酸塩などの浴液中に前記酸化触媒を浸し、その後乾燥し空気

(5)

本発明者らは、 UO 生成の低下を目的として種々研究改良を重ねた結果、白金、パラジウム等の活性金属を純金屬により故意に部分被覆させ、 UO の酸化に関与する活性点をコントロールすることによつて UO の生成が抑制でき、しかも未燃焼HC、あるいはCOの浄化活性を損わない触媒を開発し得ることを見い出して本発明を完成した。

すなわち、本発明触媒は、例えは活性アルミニナ球状担体に白金又はパラジウムを単独で、あるいはこの両者を混合したもの又はこれらを主成分として他の白金属元素を含むものを触媒成分として担持させてなる酸化触媒に、マグネシウム、バリウム、マンガン、亜鉛、鉄、ニッケル、ランタン、セリウム、コバルトまたはストロンチウムから選ばれる1種又は2種以上の純金屬を前記酸化触媒に担持させて得られる。

本発明において使用される担体は、特に既定されないが耐火性無機物が望ましく、例えはアルミナ、シリカ、ケイソク土、ジルコニア、ハ

(4)

中で焼成することにより金属性を分解し酸触媒上に担持させると、本発明触媒が得られる。

含浸する金属塩浴液の濃度は、金属自体としての濃度で0.001~5g/L、好ましくは0.01~1g/Lである。また含浸時間は任意に選択できるが3~60分間が好ましい。焼成温度は各々の分解温度以上であればよく、焼成時間は30~180分間で選択するとよい。純金屬の担持は上述の如く、白金、パラジウム等の活性金属を担持させた後に行つてもよいが、担持させる前でもよい。また活性金属塩と純金屬を混合した含浸液により同時に担持しても良い。 UO 生成に対する活性評価の条件として UO が0.1摩%、酸素が UO を酸化するに必要な過剰量、そして残部が酸素であるようなガス混合物を、ガス空間速度20000hr⁻¹、反応圧力約1気圧で反応管に導入し、触媒床温度400°C、触媒量10cc、触媒粒度5~6メッシュで反応を行なう。さらに排出される UO の分析は沃茶球華浴液による酸化還元反応に依

(6)

り SO_2 増化活性の評価を行なつた。また酸化水素(プロパン)浄化率の評価は、CO 1.2 容積%、プロパン(C_3H_8) 500 ppm、残りが空気であるガス混合物をガス空間速度 18000 hr⁻¹、反応圧力約 1 気圧で反応管に導入し触媒床温度 400°C、触媒量 5 cc、触媒粒度 5 メッシュで行なつた。

次に本発明触媒について実施例により具体的に説明する。

実施例 1

5~6 メッシュの活性アルミナ球状担体に、白金(Pt)、パラジウム(Pd)および白金-パラジウム(質量比 Pd/Pt=1/1)のそれぞれを触媒 1 g 当り金属重量として 1 g を担持した酸化触媒を製造する。次に金屬亜鉛として 0.5 g/1 g 温度になる液水に硝酸亜鉛を溶解し台浸液を作成した。この溶液に上記触媒を投入し、攪拌し 20 分間静置する。120°C の加熱下で乾燥後、空気中で 700°C、2 時間焼成し金屬塩を分解して貴金属(本実施例では亜鉛)を担持させ

(7)

マンガン(Mn)、亜鉛(Zn)、鉄(Fe)、ニッケル(Ni)、ランタン(La)、セリウム(Ue)の硝酸塩を用い実施例 1 と全く同様にして貴金属を担持させる。これらの触媒によるプロパン浄化率及び SO_2 排出率を第 1 図に示す。

第 1 図からもわかるように、本発明触媒による場合、貴金属無添加のものに比べイオウ被毒後の C_3H_8 浄化率の低下もみられず SO_2 の排出率も大きい。即ち本発明触媒は SO_2 の生成を有効に低下せしめている。

実施例 2

5~6 メッシュの活性アルミナ球状担体を硝酸パラジウム及び貴金属の硝酸塩の混合物に浸漬後、実施例 1 と全く同様の方法で酸化触媒を製造する。台浸液の硝酸パラジウム濃度は金屬として 1.0 g/1 g である。また貴金属は実施例 2 の場合と全く同様である。これらの触媒のプロパン浄化率と SO_2 排出率を第 2 図に示す。第 2 図からもわかるようにその効果は実施例 2 の場合とほぼ同様である。

(8)

る。これらの触媒によるプロパン浄化率及び SO_2 排出率を測定し、その結果を表 1 に示す。

表 1

触媒	C_3H_8 浄化率(%)		イオウ被毒後の C_3H_8 浄化率(%)		SO_2 排出率(%)	
	金屬添 加前	金屬添 加後	金屬添 加前	金屬添 加後	金屬添 加前	金屬添 加後
Pt触媒	50.0	51.2	62.5	80.4	57.5	80.6
Pd触媒	92.3	95.7	70.5	73.0	60.0	82.4
Pt-Pd 触媒	81.7	84.6	65.9	67.6	51.2	81.3

上掲の表からわかるように、本発明の触媒は貴金属無添加のものに比べてイオウ被毒後のプロパン(C_3H_8) 浄化率の低下もなく、 SO_2 の排出率も大きい。即ち SO_2 の生成が効果的に抑制されていることを示す。

実施例 2

5~6 メッシュの活性アルミナ球状担体にパラジウムを触媒 1 g 当り金屬重量として 1 g を担持した酸化触媒を製造する。次に金屬塩としてマグネシウム(Mg)、バリウム(Ba)、マンガン(Mn)、亜鉛(Zn)、鉄(Fe)、ニッケル(Ni)、ランタン(La)、セリウム(Ue)、コバルト(Co)、およびストロンチウム(Sr)の硝酸塩を用い実施例 1 と全く同様にして貴金属を担持させる。これらの触媒のプロパン浄化率と SO_2 排出率を第 2 図に示す。第 3 図からもわかるように、 Pd 触媒に比べ SO_2 の排出率が高いため、貴金属の添加効果は顕著である。

4. 四面の簡単な説明

図 1, 2, 3

はイオウ被毒後の触媒のプロパン浄化率と排出 SO_2 の百分率を表わしたものである。

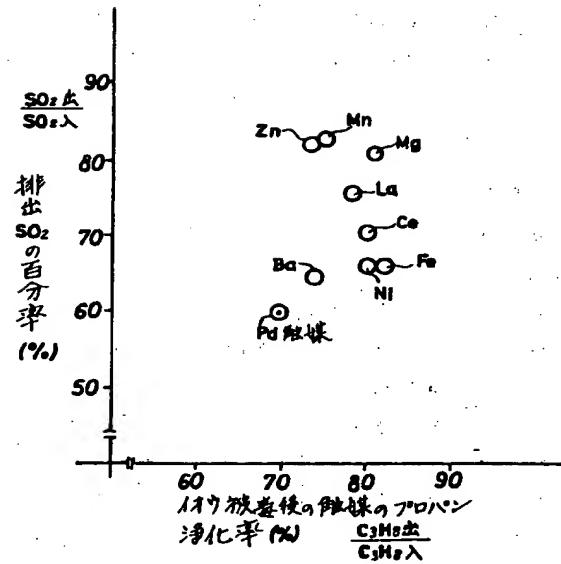
図 1, 2, 3 は Pd 触媒に貴金属を吸着によって担持したもの、図 2 は Pd と貴金属を同時に担持したもの、図 3 は Pd 触媒に貴金属

(9)

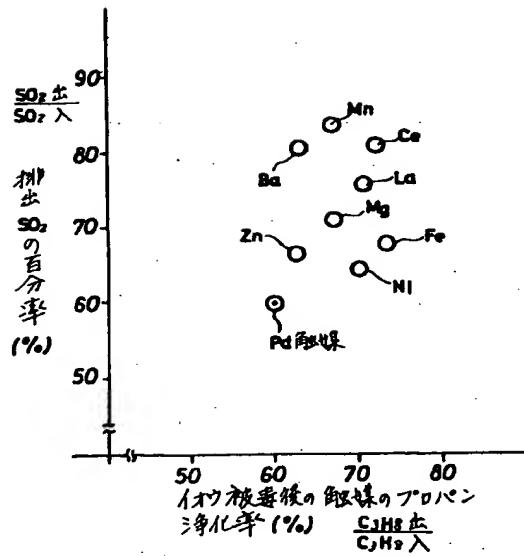
考1図

廻を後処理によつて担持したものについてのそれぞれの結果を示している。

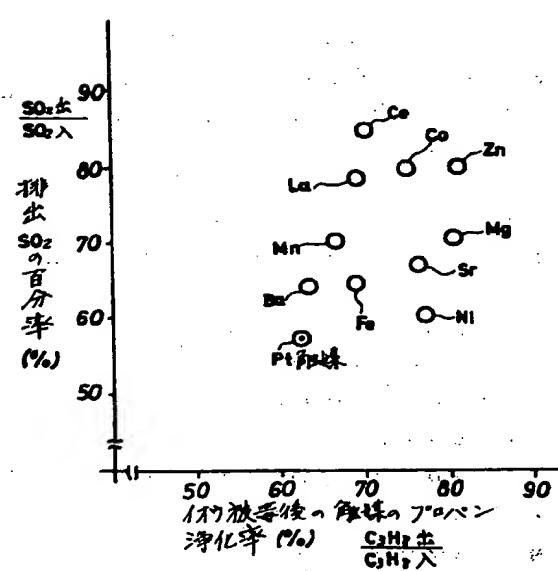
特許出願人 トヨタ自動車工業株式会社
代理人 フレッド・ラム
(外1名)



考2図



考3図



4. 前記以外の発明者および代理人

(1) 発明者

住所 愛知県豊田市今町2丁目4番地の14

氏名 内田 清

住所 愛知県豊田市朝日町6丁目6番地の45

氏名 藤坂 博

(2) 代理人

住所 東京都千代田区神田駿河台1の6

主婦の友ビル

氏名 (6861) 勉 稔夫



(2)

特開昭52-26390(5)

手続補正書

昭和50年11月28日

特許庁長官一審特長殿

1. 事件の表示 昭和50年特許願第108286号

2. 発明の名称 排気ガス浄化用酸化触媒

3. 補正する者

事件との関係 特許出願人

名称 (820) トヨタ自動車工業株式会社

4. 代理人

住所 東京都千代田区神田駿河台1の6、主婦の友ビル

氏名 (6271) 勉 稔美

(ほか1名)

5. 補正命令の日付

昭和 年 月 日 発

6. 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の欄

7. 補正の内容

明細書第7ページ6行の

「5ヶ月」を「5~6ヶ月」と補正する。